

平成 28 年度第 2 回陸上掘削部会執行部会議事録

日時:2016 年 12 月 2 日(金)14:00~17:00

場所:文部科学省 18 階 局1会議室

出席予定者:

執行部:小村健太郎(部会長/防災科学技術研究所) 廣野哲朗(大阪大学) 小野重明(JAMSTEC)
長沼 毅(広島大学) 藤原 治(産業技術総合研究所) モリ ジェームズ(京都大学防災研究所)
林 為人(京都大学) 中川 毅(立命館大学)

オブザーバー:モーキョー(JAMSTEC)

事務局:齊藤千鶴 品川牧詩 高橋可江 双木真理子(JAMSTEC)

欠席予定者:中川光弘(北海道大学) 菅沼悠介(国立極地研究所) 矢部 康男(東北大学)
浅沼 宏(SAG 委員/産業技術総合研究所)

議事次第(案)

1. 前回(160713)議事録確認.....資料 1
2. ICDP 及び関連プロジェクト報告
 - ・ICDP training course 報告.....資料 2
 - ・ICDP ワークショップへの対応.....資料 3-1, 3-2
 - ・Operational Support Group (OSG) meeting について.....資料 4
 - ・AGU タウンホールミーティングについて.....資料 5
 - ・各プロジェクトの進捗(掘り起し含む)
 - (ア) 琵琶湖掘削プロポーザル
 - (イ) COREF(国際サンプリング公募)
 - (ウ) Dseis
 - (エ) オマーン掘削.....資料 6
 - (オ) チチュルブクレーター掘削.....資料 7
 - ・これまでの ICDP 関連成果のとりまとめ.....資料 8-1, 8-2, 参考資料
 - ・陸上掘削部会提案による J-DESC コアスクールの実施.....資料 9-1, 9-2
 - ・Rapid Response Drilling の和訳について.....資料 10
 - ・ICDP コア保管について.....資料 11
3. J-DESC 関連
 - ・J-DESC 成果報告会、成果パンフレットについて.....資料 12-1, 12-2, 12-3, 12-4
 - ・JpGU 関連(セッション、出展、タウンホールミーティング等).....資料 13-1, 13-2
4. IODP 部会の動向
5. その他
 - ・報告など(あれば)
 - ・次回日程確認

配布資料

資料 1	前回執行部会(160713)議事録(案)	資料 9-1	2015 年岩石コアスクール計画書
資料 2	ICDP Training Course Agenda, 報告書	資料 9-2	2015 年岩石コアスクール報告書
資料 3-1	現在アナウンスされている ICDP WS 一覧	資料 10	RRD 和訳原稿抜粋
資料 3-2	陸上部会の H28 予算状況	資料 11	IODP core repositories and sample
資料 4	OSG meeting 報告書	資料 12-1	IODP・ICDP 成果報告会概要案
資料 5	AGU ICDP-CSDCO Town Hall Meeting	資料 12-2	成果パンフレット構成案
資料 6	オマーン掘削開始プレスリリース	資料 12-3	成果パンフへの陸上記載検討メール
資料 7-1	チチュルブ掘削論文プレスリリース	資料 12-4	第 2 回掘削委員会議事録(案)抜粋
資料 7-2	チチュルブ掘削記事の例	資料 13-1	JpGU 掘削科学セッション概要
資料 8-1	台湾掘削の Publications	資料 13-2	JpGU-AGU 2017 出展場所・趣意書
資料 8-2	IODP の成果一覧の例	参考資料	陸上掘削部会 2016 年度活動方針

議事録（案）

1. 前回(160713)議事録確認.....資料 1
会議終了までに修正等はなく、原案のまま承認がなされた。

2. ICDP 及び関連プロジェクト報告

- ・ICDP training course 報告 資料 2

小村部会長および小野委員より報告があった。

- ・コースは基本的に大学院生やポスドクを対象としており、それ以上のクラスが出席しても物足りないため、次回周知の際に対象研究者のレベルを明示すると参加しやすい。
- ・学生からの応募が無かったということだが、会員機関の担当者が周知するなどしてはどうか。

実行項目（161202-01）：事務局が会員機関の担当者の ML 登録状況を確認し、登録する。

- ・ICDP ワークショップへの対応 資料 3-1, 3-2

小村部会長より説明があった。

- ・海外から提案されたプロジェクトにも日本研究者の参加を奨励すべく、WS のアナウンスをしていく。

合意事項（161202-01）：執行部会として SEISMS の WS について旅費の支援を実施する。

実行項目（161202-02）：事務局から、1 月半ばを締め切り、若干名として SEISMS WS への旅費の支援をメールニュースでアナウンスする。その他の WS についてもメールニュースで開催情報を周知する。

- ・Operational Support Group (OSG) meeting について..... 資料 4

文部科学省佐藤企画官からの出張報告書に基づき、小村部会長より報告があった。

- ・Project Management & Engineering WG において、佐藤企画官より、EC の開催を現状の 6 月から 5 月に前倒してもらいたい旨、また EC の評価結果のうち採択提案又は WS 開催となった提案について ICDP のウェブサイトにも公開してもらいたい旨を申し入れ、議長から検討したいとの回答があった。
- ・上記申し入れについては、EC Chair が交代したタイミングで改めて Letter で出すと良いのではないか。
- ・Data-curation-publication WG において、掘削コアやデータは現状の個別管理から、統一的手法による一元管理にしていく必要があるとの議論があった。

- ・AGU タウンホールミーティングについて 資料 5

小村部会長より説明があった。

実行項目（161202-03）：AGU 参加者は積極的に ICDP-THM に参加し、次回執行部会で報告を行う。

- ・各プロジェクトの進捗(掘り起し含む)

(ア) 琵琶湖掘削プロポーザル

中川委員より説明があった。

- ・琵琶湖掘削プロポーザルについては、まずは国内で WS を実施するなどを検討してはどうか。執行部会がサポートを行う。開催経費については、会員提案型活動経費の活用、来年度予算の ICDP プロポーザル作成支援費への計上などが考えられる。
- ・微生物学分野にもメタン生成などの方面から興味を持つ研究者がいる可能性がある。
- ・2018 年 1 月のプロポーザル提出を視野に、春に WS 開催し、夏からプロポーザル作成開始してはどうか。

実行項目（161202-04）：次回執行部会で中川委員が本プロポーザルにかかるプレゼンを実施し、それを受けて WS 開催の予算措置を検討する。

- (イ) COREF(国際サンプリング公募)

廣野委員より説明があった。

- ・個別の案件については現段階で執行部会としての判断はできないと考えられるため、これらの問題点をまとめ提言を出していくこととする。

実行項目 (161202-05) : 提案の原案について小村部会長、廣野委員、井龍氏で作成し、メールにて執行部会に回付する。

(ウ) Dseis

小村部会長より説明があった。

・今後、J-DESC/JAMSTEC が主幹組織となりプレス発表を行う予定。

(エ) オマーン掘削..... 資料 6

小村部会長より説明があった。

・11/30 に JAMSTEC/J-DESC、新潟大学、静岡大学、金沢大学によるプレス発表がなされた。

(オ) チチュルブクレーター掘削..... 資料 7

小村部会長より説明があった。

・11/16 に東北大学、JAMSTEC/J-DESC、東邦大学によるプレス発表がなされた。

・これまでの ICDP 関連成果のとりまとめ 資料 8-1, 8-2, 参考資料

小村部会長より説明があった。

・組織的に情報を収集する必要がある。まずは可能な範囲で執行部の委員が収集し、それ以外はニュースレターで呼びかけるなどして集めていく。

・陸上掘削部会提案による J-DESC コアスクールの実施 資料 9-1, 9-2

小村部会長より報告があった。

・井龍氏から実施検討中の旨連絡があった。

・スクールのテキストはできる範囲で公開すると有用である。

・スクールのテキスト以外にも、教育に有用なスライド・素材を J-DESC として整備(収集・公開)しても良いのではないか。総会で議論しても良いだろう。

・Rapid Response Drilling の和訳について..... 資料 10

小村部会長、モリ委員より説明があった。

・最終的にはゴールは現段階で明確ではないが、まずは PDF で J-DESC の WEB に掲載する形としたい。

・和訳することについては著作権者の了解は得られているか。

実行項目 (161202-06) : 念のため和訳することについてモリ委員から原著者に改めて確認する。

・ICDP コア保管について..... 資料 11

廣野委員から説明があった。

・要望書を提出する前に、高知大学徳山氏と JAMSTEC、小村部会長で議論をする。

・ICDP 側でポリシーを策定してもらうことも必要。

・中長期的には、ICDP に対して一元的な National Core Center を設置するという方針を提言していくべき。

・短期的には、KCC をどう有効利用するか。現在の KCC 保管庫は、IODP 用のスペース、高知大学のスペース、JAMSTEC のスペースに分かれており、それぞれのルールに則って運用されている。

3. J-DESC 関連

・J-DESC 成果報告会、成果パンフレットについて..... 資料 12-1, 12-2, 12-3, 12-4

小村部会長より説明があった。

・オマーン掘削は小野委員に発表いただく。

・JBBP は浅沼委員に依頼する。

・アルパイン掘削は重松氏に依頼する。

・SEISM はモリ委員に発表いただく。

- JpGU 関連(セッション、出展、タウンホールミーティング等).....資料 13-1, 13-2
小村部会長より説明があった。
- セッションは日本語でも英語でも発表可のため、ぜひ応募をお願いしたい。

合意事項 (160715-02) : JAMSTEC と J-DESC で合同ブースを出展することを承認する。

4. IODP 部会の動向

- 時間超過のため省略

5. その他

- 次回日程確認

3/21 (成果報告会) の前後から 4 月の間で事務局より日程調整を行う。